

# 平成23年度 木曾三川下流部広域防災ネットワーク検討会

東北地方太平洋沖地震の被災概要等

平成23年6月27日

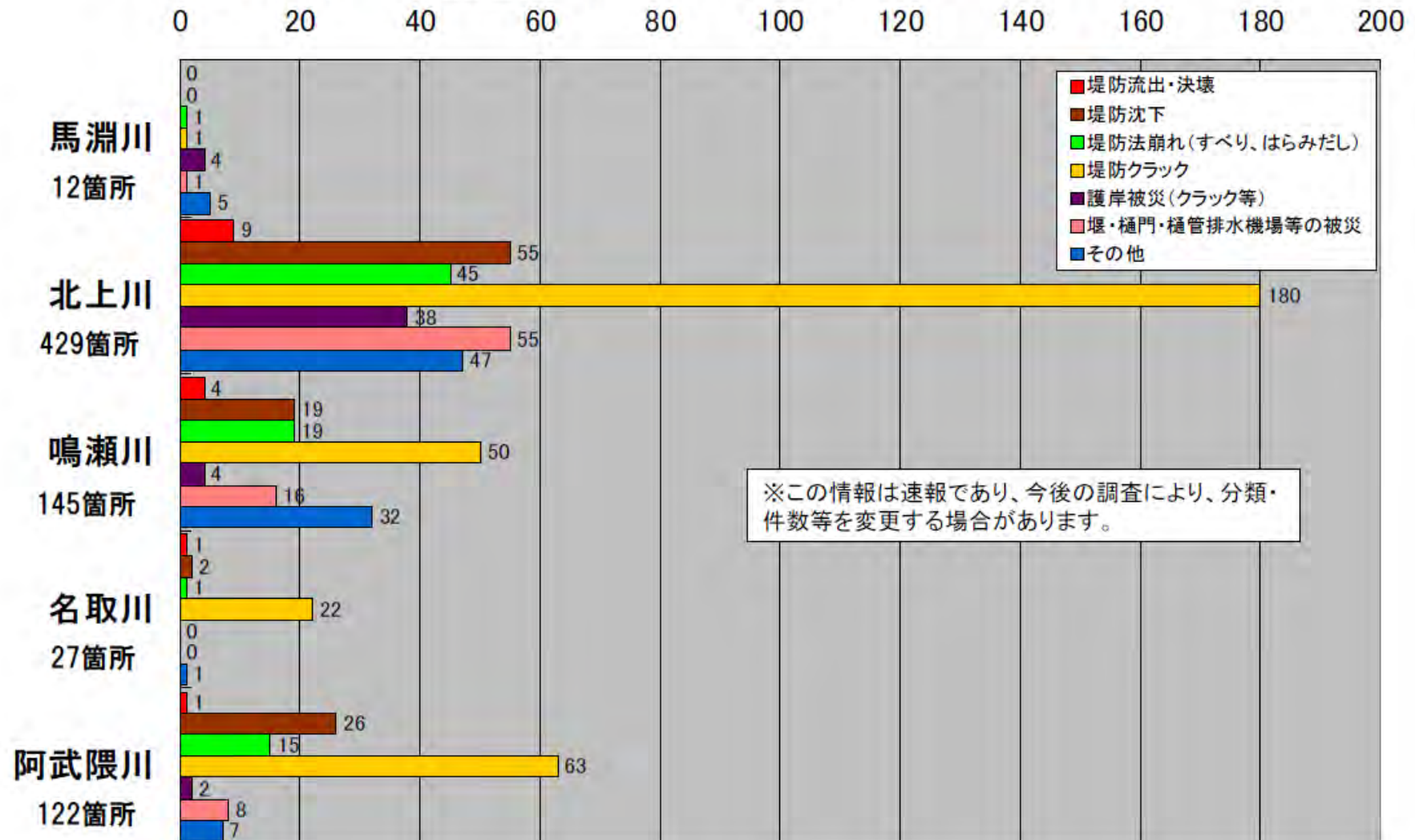
# 東北地方太平洋沖地震での被災状況(東北地整HPより)

## 直轄河川管理施設における発生被害要因別箇所数

平成23年3月27日現在

【水系別被害箇所数】

被害箇所総数： 735箇所 ※平成23年3月27日 18:00時点



# 東北地方太平洋沖地震での被災状況(東北地整HPより)

## 救援物資輸送等に資する緊急復旧工事の事例

平成23年3月27日現在

甚大な被災状況を踏まえ、道路兼用堤防の緊急復旧においては、救援物資輸送に資する交通路の確保を優先して工事を進めています。甚大な被害を受けた道路兼用堤防5箇所中3箇所において、車両通行が可能となりました。

●北上川左岸0.0km付近(宮城県石巻市北上町十三浜)  
<7ページ、箇所番号1>



●北上川右岸4.0km付近(宮城県石巻市針岡)  
<7ページ、箇所番号2>



●阿武隈川右岸32.0km付近(宮城県丸森町小斉)  
<7ページ、箇所番号15>



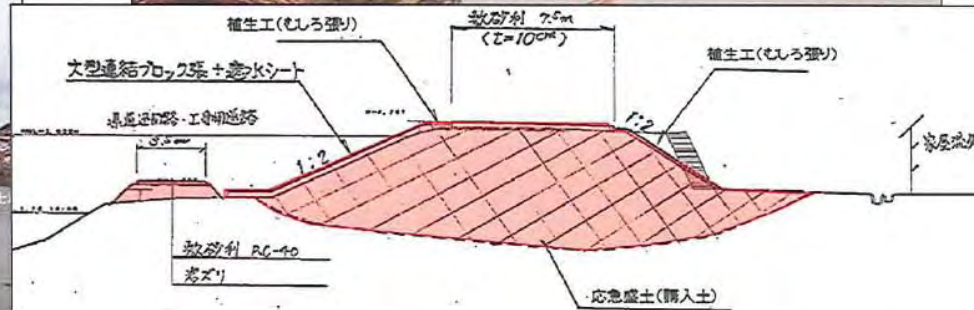
# 物資輸送や被災者救援等に資する河川堤防（東北地整HPより）

津波被害地区への物資輸送や被災者救援等に資する道路兼用河川堤防5箇所の復旧工事を優先的に実施！

(速報)3月28日 18:00現在

■津波で大きな被害を被った①石巻市月浜地区（北上川左岸国道398号）②石巻市釜谷地区（北上川右岸県道河北桃生線）や地盤の液状化によって大規模な被災を受けた道路兼用河川堤防③大崎市古川淵尻地区（江合川左岸市道淵尻堤防線と市道三ツ江線）、④角田市坂津田地区（阿武隈川右岸主要地方道丸森柴田線）⑤伊具郡丸森町小齊地区（阿武隈川右岸丸森町道）の通行機能を早急に確保する。5箇所のうち3箇所については、すでに通行可能であり、残り2箇所についても3月末までには通行を確保する予定。

## 道路兼用河川堤防緊急復旧状況 （北上川：石巻市釜谷地区）



# 東北地方太平洋沖地震での被災状況(東北地整HPより)



# 東北地方太平洋沖地震での被災状況(関東地整HPより)

久慈川 里川(左岸-0.8k~-0.7k)

被災状況



江戸川(右岸57.6k~57.8k)

被災状況



利根川下流(左岸18.6k~19.0k)

被災状況



利根川下流(右岸27.1k~27.2k)

被災状況



# 仙台平野における地震に伴う地盤沈下について

国土交通省

Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

Press Release

同時発表  
東北地方整備局  
宮城県

平成23年4月28日  
国土交通省河川局  
国土地理院

## 仙台平野における地震に伴う地盤沈下について

東北地方太平洋沖地震に伴う地殻変動により、仙台平野の海岸及び平地部において広範な地盤沈下が発生しています。

また、津波により、海岸堤防は全域にわたり全半壊し、海岸沿いの砂丘も津波による侵食等により部分的に失われた状態となっています。

このため、仙台平野においては高潮等に対する安全性が著しく低下していることから、航空レーザ計測等<sup>※1</sup>により得られたデータより、面的に地盤沈下の状況を把握し、海面との高さの関係を整理しました。地震前は、既往最高潮位以下の面積83km<sup>2</sup>のうち、平均海面以下の面積が3km<sup>2</sup>であったものが、地震後にはそれぞれ111km<sup>2</sup>、16km<sup>2</sup>と変化しました。

	地震前	地震後	増加した割合
平均海面 <sup>※2</sup> 以下の面積 <sup>※3</sup> (T.P. ±0m)	3 km <sup>2</sup>	16 km <sup>2</sup>	5.3 倍
大潮の満潮位 <sup>※4</sup> 以下の面積 (T.P. +0.7m)	32 km <sup>2</sup>	56 km <sup>2</sup>	1.8 倍
既往最高潮位 <sup>※5</sup> 以下の面積 (T.P. +1.6m)	83 km <sup>2</sup>	111 km <sup>2</sup>	1.3 倍

※1 一部現地測量の成果を使用して補正

※2 東京湾平均海面(T.P.±0m)

※3 面積は、小数点第一位を四捨五入

※4 期望平均満潮位：新月および満月の日から5日以内に現れる各月の最高満潮面の平均値。ここではT.P.+0.7m

※5 T.P.+1.58m(観測所：仙台新港験潮所 1980～2010の統計)をT.P.+1.6mとして算出

※ 同様の発表を、東北地方整備局、宮城県より宮城県政記者会、東北電力記者クラブ、東北専門記者会に対し実施しております。

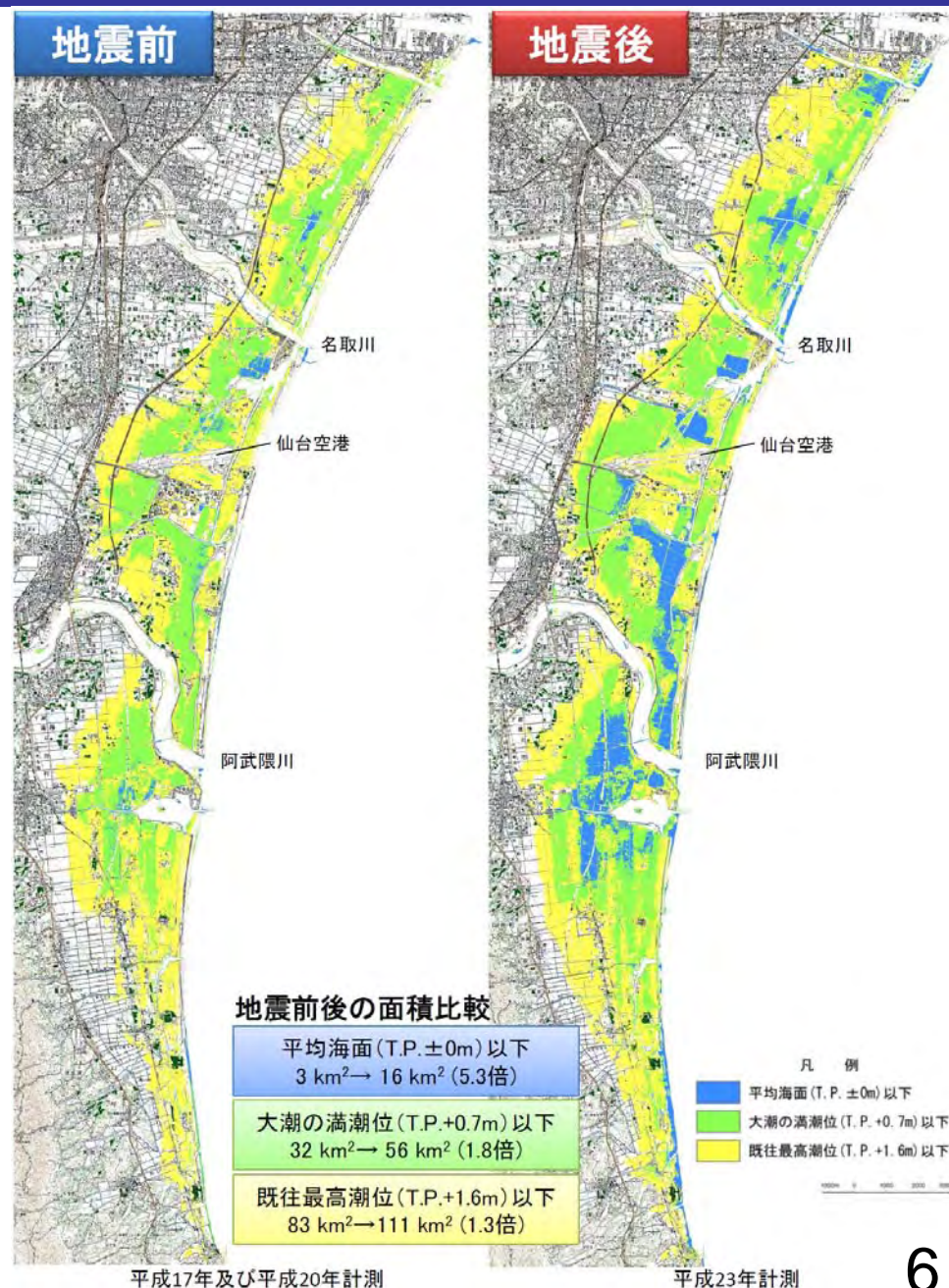
### <問い合わせ先>

○国土交通省河川局河川計画課河川情報企画室 TEL03-5253-8446(直通)

課長補佐 中村 圭吾(内線 35375)

○国土交通省河川局海岸室 TEL03-5253-8471(直通)

課長補佐 横林 直樹(内線 36335)(海岸関係)







# 木曾川下流河川事務所管内における堤防耐震点検

## 対象地震等

### ◆対象地震

東海・東南海地震

### ◆想定津波

安政東海地震津波

### ◆耐震性の評価において考慮する外水位（照査外水位）

地震発生に伴う津波による「最大津波遡上高」と「朔望平均満潮位に波浪等の影響を見込んだ高さ」とを比較し高い方の値を考慮

### ◆判断基準

地震の影響により沈下した「堤防天端の高さ」が「耐震性の評価において考慮する外水位」より高ければ、耐震性能を満足すると評価（高さだけの評価であり、浸透・侵食などの評価はしていない）

## 点検結果

### ◆対象区間等

木曾川下流河川事務所管内の、背割堤（揖斐川・長良川、木曾川・長良川）を除く、全区間で実施済み

### ◆点検結果

全川の約1～3m程度沈下する

橋梁部周辺等、堤防の高さ不足の箇所を除き、「沈下後堤防高」 > 「照査外水位」

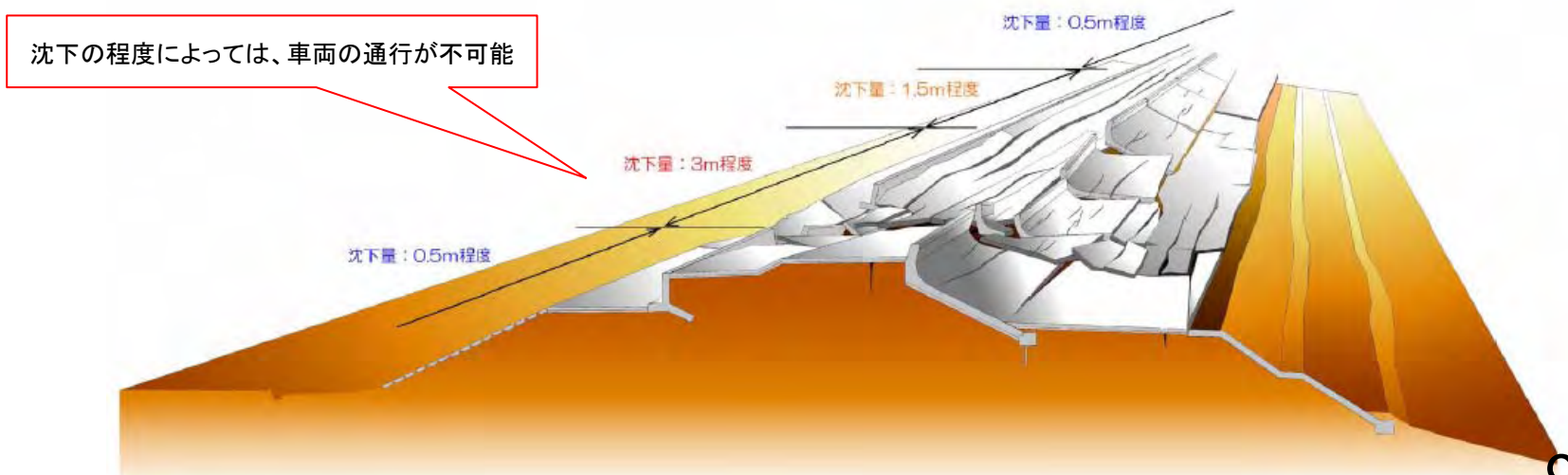
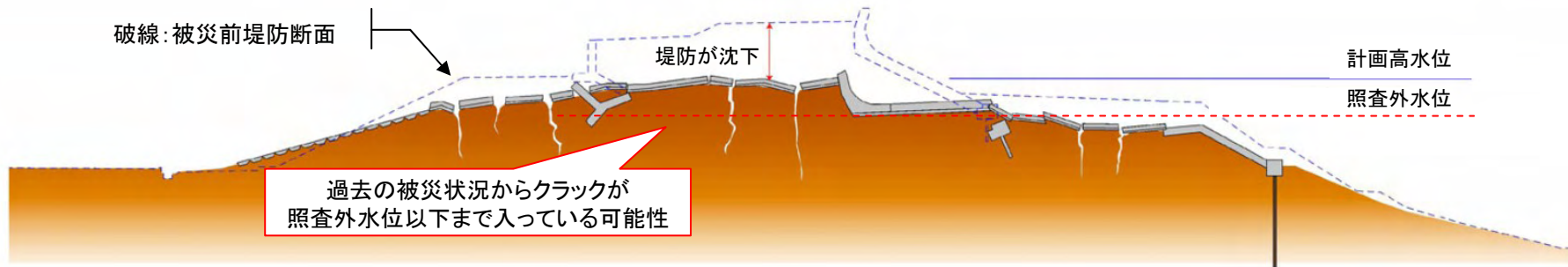
## 今後の予定（点検及び対策）

防災ネットワークの視点などから、優先順位の高い箇所について順次耐震対策を実施

また、想定外力や、耐震基準等の見直しに関する全国的な指針が出された場合、適宜、見直しを図る

# 地震による堤防被害イメージ

護岸の被災やクラックの影響により堤防機能を有していない可能性。  
堤防の沈下量によっては、天端道路を通行出来ず復旧活動等に支障が生じる可能性。



# 東北地方太平洋沖地震での被災状況(東北地整HPより)

